

資料渉猟余話

その142

前回は美術誌『伊那之華』に掲載された絵を中心にみたが、今回は書を中心

明治末の美術誌『伊那の華』下

～掲載の書について～

鎌倉 貞男

ると、江戸時代の儒者が多いことに気がつく。今、時代別に記すと、以下の通りである。

まず江戸前期の儒者として、陽明学を学び岡山藩に仕

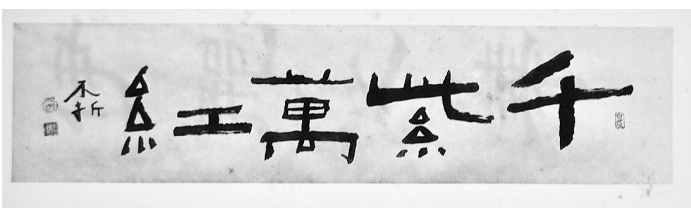
川星巖（一七八九～一八五八）である。八～一九

も高かったと思われ

飯田出身の儒学者太宰春台（一六八〇～一七四七）の作品が



坂本天山の書（屏風）



中村不折の書（扁額）

舟（勝海舟・高橋泥舟・山岡鉄舟）がい

地にはいろいろ名品があったものである。最後に書・画共

このことは、その頃まで当地の生活圏や文化圏は、どちらか

作品は絵画同様、書軸・扁額・屏風等

えた熊沢蕃山（一六六〇～一七三〇）である。こ

当地と関係の深い作家を挙げれば、天

の文人画家で洋学者

原行成）はともか

と云えば関西圏が主

とだろうか。

と云うか。